

3月の学級づくり【小学校版】

3月は、別れするとき。卒業、担任との別れ、お世話になった先生との別れ、友達との別れ、教室との別れなど、様々な別れの場面があります。特に、様々なトラブルを乗り越え、自分たちの学級が集団として高まり、互いの違いが認め合える学級となったことを自覚できるようにしたいものです。



「私の心を強くしてくれた放送室、たくさんたくさんありがとう。」

3学期の最終日。児童が下校した後、日直当番で放送室を巡回した時のことでした。アナウンス用の机に1枚の手紙が置いてあるのを見つけました。宛名は「放送室」。こう綴られていました。

「1年前は、はずかしがり屋だった私。今では、全校の前で自信をもって放送できます。今日まで毎日、私のことを見守ってくれた放送室のおかげです。私の心を強くしてくれた放送室、たくさんたくさんありがとう。さようなら。6年 Aより」

放送委員として、全校放送という大役を担い続けてきたAさんは、その日、最後の放送を終え、「自分を育ててくれた放送室」との「別れ」をしたのです。

別れの季節。様々な別れを意識できるようにしましょう。そして、その子にとっての「別れ」の意味や価値を推し量り、そこに至る活動のよさを共有したいものです。

学級通信で温かな雰囲気

学級通信は、子どもたちにとっては自分たちを見つめ返すもの、保護者にとっては学校生活の様子を知るものとなります。また、学級の歩みの足跡にもなります。それらを通して担任の子ども観や指導観などが伝わります。

次の点に配慮してみたいはいかがでしょうか。

子どもの様子を伝える

- ・キラリと輝いた姿
- ・夢中になって取り組む姿
- 信頼関係を築く

- ・継続性、平等性
- ・担任の温かな文章表現
- 目に見えないものを見つめる

- ・子どものよさも未熟さも、その背景にある思いを汲み取る

- ・子どもに、次への希望、期待を込める

学級通信を通して、読み手の子どもたちも保護者も、書き手の担任も、心が温まり、やる気につながっていくものにしたいものです。

教室環境（掲示物等）をつくる工夫

学級じまいを演出する

あわただしい年度末。教室の掲示物は、大掃除で一気に処分。または、そのまま春休みを迎えて、担任の先生が処分。そんなことはありませんか。

掲示物、ファイル、棚の中など、いつ、どのように片付けるか、計画しましょう。外した掲示物をクラス全員で見ながら、1年の活動を振り返ってもいいですね。また、個人の目標が掲示してあれば、それを見ながら振り返る時間を設けることも大切です。

学級じまいを惜しむ気持ちが生まれるように演出してみましょう。

学級目標を意識した取組を工夫する

片付けるだけでなく、学級目標に向かう短期的なプロジェクトを行うことも考えられます。取組の成果を掲示等で「見える化」することで、共に活動した仲間を意識できるようにします。

子どもの「つまずき」を支援するポイント ～グループ活動が苦手～

「曖昧な状況だと、どうしたらよいか分からない児童」には

話し合い活動では、イメージを引き出しやすくなる物や写真・イラストなどを用意してみたい。

作業的な活動では、要点や手順を視覚化するとともに、順番に活動する場面を作ったり、より少人数で活動する場面を作ったりしてみたい。

「友だち関係がうまく築けない児童」にははじめは教師が仲立ちとなりながら、参加できそうな活動で、友だちとかがかわって遊ぶ経験を増やしてみたい。

うまく関わりをもてる児童や、気付いて助けてくれる児童を同じグループにしてみたい。